

2. 東京港の津波・高潮対策について

次に東京港の津波・高潮対策について伺う。

東日本大震災から4年が経過したが、あの教訓を忘れてはならない。

海に接する東京が平穏でいられるのは、防潮堤などのインフラがしっかりと機能してのことである。

大地震により、万が一にも、東京港の防潮機能に不具合が生じ水害が発生することになれば、国家レベルで危機的な状況に陥ることにもなりかねない。

こうした事態を避けるため、最大級の地震に対しても、首都東京が水害から守られるよう、防潮堤の耐震性確保や水門を確実に閉鎖できる機能の維持などを着実に進めていくことが不可欠である。

Q 1　そこで、東日本大震災後に見直した東京港の津波・高潮対策「新10ヶ年整備計画」について、その取組状況を伺う。

A 1（港湾整備部長答弁）

- ・ 新たな10か年の整備計画を策定し2年が経過したが、沿岸部の第一線を守る防潮堤や水門については、来年度全ての対象箇所、概ね関係者調整等を終え調査・設計に着手するなど、着実に事業を進めている。
- ・ また、水門の遠隔操作を行う高潮対策センターについては、現在の江東区に加え港区にも新設し、相互にバックアップ機能を発揮できるよう2拠点化を進めており、既に今月上旬に水門操作の試験を終え、来月には新センターを稼働させ安全性を高めていく。
- ・ オリンピック・パラリンピック開催時に、万が一、最大

級の地震が発生しても、生命、財産、首都機能を守る防潮ラインがしっかりと機能するよう、万全の津波・高潮対策を実施し、防災力を強化。

整備計画に従って着々と整備が進んでいることが確認できた。また、高潮対策センターが2拠点化し、水門操作管理体制がH27年4月1日にスタートすること、水門操作のバックアップ機能が整うことは大変心強い。第2高潮対策センターを近々みせていただけるとのこと。楽しみにしている。

さて、江東地区のゼロメートル地帯はよく知られているが、私の地元大田区を中心とした港南地区にも広域にわたり低地帯が広がっており、ひとたび浸水すれば甚大な被害が生じる。

この地区の4つの水門、いわゆる「港南4水門」は、背後の水域が行き止まりで、開閉操作を伴う水門を存続させる必要性が薄れており、新たな整備計画では、4水門を廃止し防潮堤を整備していくこととしている。

また、水門がある場所には水辺に親しめる貴重な空間があり、水門廃止に当たっては、海沿いの散策路の整備など、まちづくりにも貢献していくことが求められている。

こうした魅力ある地元のまちづくりを見据えつつ、港南地区の安全性を高めるためにも、防潮堤の整備を早期に推進していくべきである。

Q 2 港南4水門のうち、貴船・呑川・南前堀の3水門については、防潮堤整備に着手したと聞いているが、地元まちづくりとの連携も含め、その進捗状況を伺う。

A 2 (港湾整備部長答弁)

- ・ ご指摘の通り、これらの水門については、新たな整備計画で、水門を廃止し防潮堤を整備していくこととしている。

- ・ 実施に当たっては、海辺の散策路の整備や水域の一部確保など、防災と魅力あるまちづくりの調和を図るため、地元大田区と鋭意協議しながら事業を進めている。
- ・ 南前堀水門における防潮堤については、現在、工事を実施しており、平成28年度に完成の見込み。
- ・ また、貴船・呑川水門における防潮堤については、来年度、工事に着手し、平成30年度に完成の予定。
- ・ こうした取組を着実に実施し、この地区の安全性を高めていく。

水門を廃止し、防潮堤を整備するこの計画は防災と魅力あるまちづくり、東糀谷から大森のふるさとの浜辺まで「海辺の散策路」でつながることになる。H30年が大変楽しみである

そして何よりも3水門に代わる防潮堤の完成時期が明示されたことで、地元の方々も安心すると思う。

残る北前堀水門の北側には、防潮堤が道路等を横切る箇所に、水門に相当する陸こうがある。陸こうは非常時に開閉操作を伴うため、背後地域の安全性向上のためにも可能な限り廃止していくことが望まれる。

また、当該地区には、防潮堤の外側に老人福祉施設が存在している。北前堀水門の廃止に伴い防潮堤を海側に整備をすれば、陸こうを廃止でき、防潮堤内側の地域の安全性を高めることができるとともに、老人福祉施設も防潮堤で守られることになる。この整備効果は高く、早急に進められるよう取り組むことが必要なのではないか。

Q3 そこで、北前堀水門の防潮堤整備の取組状況について伺う。

A 3 (港湾整備部長答弁)

- ・ 北前堀水門の北側には陸こうが3箇所設置されており背後には、住宅や中小の工場が密集している。また、防潮堤の外側には老人福祉施設も建設されている。
- ・ 当該箇所は、地元のまちづくりなどを踏まえ、水門廃止後の防潮堤の位置等を決めた上で整備する予定であった。しかし、大震災を教訓に、陸こうを可能な限り廃止するなどの方針の下、水門北側の海岸保全区域の見直しを先行して海側の防潮堤を整備し、陸こうを削減することとした。これにより老人福祉施設も防潮堤で守られる。
- ・ この水門北側の箇所は、既に測量に着手し、H28年度に設計、H29年度から工事の予定。
- ・ 引き続き、現水門に代わる防潮堤の位置等について大田区と協議を進め、オリンピック・パラリンピック大会開催までに水門北側を含め、整備を完了。

これまでの質疑で、新たな計画策定後の海岸保全施設の整備状況を確認し、特に、港南4水門について、陸こう廃止も含め、着実に整備が進められていることが分かった。

引き続き、大田区としっかり連携をとりながら工事を着実に進めていただきたい。

東京港の津波高潮対策は、想定する最大級の地震に対しても耐え得る施設整備を行っており、全国的にみても極めて進んでいると聞いているが、多くの都民や集積した産業、それをささえる技術をもった多くの中小企業、首都機能を守るためにも、こうした取組のスピード感を失ってはならない。

世界に誇る安全・安心な都市の実現に向け、これからも手を緩めることなく、東京港の津波・高潮対策を推進していくことを要望しておきます。